

9月定例議会の報告

9月定例議会は9月16日から22日まで開かれました。実質は16日が午後1時半から3時半まで、最終日(22日)は午後4時半から8時まででした。その間は休会。

一般質問で明らかになったこと

「電柱地下埋設の可能性」と「景観行政団体への移行」

樋口は、9月定例議会の一般質問で、2つのテーマについて質問しました。

1つめは、山中湖村の行政計画書である「第3期長期総合計画」の進捗状況について質問しました。村長以下当局の回答は、結論的には「順調に進んでいる」「問題はない」というものでした。この回答に納得できないので、次のような再質問を行いました。

「水の流れないダム建設や河川改修事業を進める一方、大雨が降ると幹線道路や生活道路が直ぐに冠水し、観光客や住民が迷惑している行政のアンバランスの事実」「費用対効果の点から、廃止を含む見直しをすべきワインドウの栽培事業の現状」

「電柱の地下埋設は、景観美化事業として長期計画に盛り込まれているのに実行されていない現実」

「答弁によれば、長期総合計画の進捗状況について全くチェックが行われていないことは明らかで、当村も事業の成果や見直しなどのための行政評価システムを導入すべきである」

しかし、村長は何の根拠も示さず、「ワインドウの栽培事業は続ける」とか、成果は数値等に置き換えるのは難しいので、行政評価システムの導入は考えていない」という消極的答弁でした。当局には研究

前向きな回答も得ました。

2つ目のテーマとして、「景観美化政策」について進捗状況を質問しました。

村長の回答は、「条例制定の研究や準備」それに「景観行政団体への移行手続き」について、既に山梨県とも検討を進めているという好回答を得ました。

この問題は、住民の既得権や私権制限に関わってくる問題でもありますので、広く情報を開示し、公平な住民参加のもとで進める必要があります。

村が主体となつて

「冬季観光振興事業」の立ち上げを!

一般会計の補正予算として、村道58、59号線の改良事業費に6,500万円、湖の浚渫事業費(調査費)に1,772万円などを含む1億879万円が追加補正されました。

その中に、「観光協会補助事業」として700万円の補助金支出が計上されており、目的はイルミネーションを花の都で大々的に飾りつける費用ということでした。

樋口は、これに対する問題を整理し、当局の見解を求めました。

今まで文学の森で行われていたアートイルミネーションには、色やデザインを含む賛否両論があり、イルミネーション自体が全国的にマンネリ化している。この現実を考えると、花の都で鉄骨のアーチを組み光の回廊をつくるなどの計画は、設置場所、規模、色、形などについて再検討すべき。

「補助金事業」は、観光協会が主体となる事業への補助であり、協会員以外の事業者や村民の意見が反映されない。

花の都周辺には、冬でも富士山の写真撮影にカメラマンが訪れている。ブドウ棚と同様にロケーションとして問題が発生する可能性もある。



村長が公務中の酒宴を認め

本会議で陳謝(遺憾の意)

22日の議会最終日は、予定では午前中に一般質問(2名)が行われ、午後から補正予算などの議案審議が行われることになっていました。

ところが、前日の21日に村長以下四役

および一部幹部職員の公務中の酒宴(詳細は下記コラム)が催されたことが議会運営委員会会で問題となりました。

その取り扱いについて議会運営委員会でも村長側との話し合いの後、樋口に考えを求めてきたので、村長が議長(村民の前)において事実を認め謝罪すべき(高村文雄議員も同意見)と主張し、「穏便に納められないか」という議会運営側の意見と、納めてほしい」といつ村長側の意見調整が交錯し、時は、議会議事録に「結句、午後四時半に開会し、冒頭樋口が緊急質問に立ち、村長

いて、自然観察や雪上でのレクリエーションを楽しんでいるが、個人的イベントに止まっている。

「これらを総合的に解決するものとして、冬の山中湖の観光のため」に、単に観光協会だけでなく、村が主体となつた「冬季観光振興事業」のプロジェクトを計画し、そのための実行委員会を立ち上げ、そこに事業委託してはどうか。

事業内容の例として、写真の撮影会、写真教室の開催、コンテストの開催。地域や個人、グループ的に行っているイベントを広く募集し、それを連結して山中湖村の「冬季観光振興」の総合的プロジェクトとして宣伝し、一体的に盛り上げていく。

そのためには、予算が700万円では足りないので、1000万円でも1500万円でもいいのではないか?

これに対する村長答弁では、「樋口議員とは2年半一緒に議会活動をしてきたが、これほど前向きな提案をされるのは始めてだ。予算が1000万円でも1500万円でもいいのではないかと、この発言には驚いた。いいアイデアをどんどん持ち込んで欲しい」と、これまた予想以上の回答に樋口自身驚き、今後村民の皆さんとより良いアイデアを取りまとめ、どんどん提案していくと考えています。

今後、希望が湧いてきます。

に対し事実確認と村長の釈明を求めました。村長は答弁に立ち、事実関係を大筋で認め、反省と謝罪の意味を込めた当局とのすり合わせ(合意)「遺憾の意」を表明し、議会が正常化しました。

議事録によると、21日の夜、長田良貞収入役の退任に伴う慰労会を旭日丘の飲食店でおこなった。参加者は課長以上の幹部職員で、勿論村四役(村長、助役、収入役、教育長)も同席した。食前酒が出されたが殆どの課長たちは食事を済ませ、1時前に店を出て庁舎に戻った。

残った四役と統括課長たちは、日本酒等の飲酒を続け、2時前に庁舎に戻り職務についた。長田良貞収入役は休暇をとっていたので職員が自宅まで車で送った。庁舎内で村長とすれ違った村民や村長と会話をした職員は「酒臭かった」と話している。

議会会期中の昼間(しかも公務中)に、村の執行役員全員が庁舎を離れ酒宴を開き、酒気を帯びて職務に戻ったという事実は、単にモラルの問題だけではない。村政の「危機管理」に対する無責任な行動であり、村民への背信行為ではないだろうか。

あなたはどうにお考えですか?

お知らせ

山中湖ファンクラブ (仮称)について

村長の議会答弁でもお分かりのように、より良い山中湖の活性プランを村は求めています。村民と行政が一体なってプランニングできる場として「山中湖ファンクラブ」(仮称)の立ち上げを計画しています。一人でも多くの方にご参加いただけるよう願っています。ご案内は、後日改めてお知らせいたします。

今後、希望が湧いてきます。